

## 自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.35

「年明けの天地の様は？ How's Heaven and Earth in the new year? 」

2021年1月15日

年が明けてすでに半月が過ぎてしまいました。新年の挨拶、コロナの爆発的感染拡大、2度目の緊急事態宣言への対応に追われていましたが、外出自粛で時間ができましたので、今年最初の号を作成しました。

(なお、年賀状の付録/写真をHPリストに載せていますので、よろしければご覧下さい)。

関東地方は年明けから8日間快晴つづきの毎日でしたが、日本海側では記録的な豪雪に見舞われています。昨年夏の猛暑、巨大台風、豪雨を思い起こすと、ウイルスの猛威に振り回されている人間社会だけでなく自然界も異変が起こっているのではないかと心配になりませんか？

そこで、「天」と地の変化に目を向けてみた。夜明けの空には明けの月(26日の月)近くに3つの星が見えた。天文情報を調べると、木星、土星、水星が大接近するとあった。しかし、1/10の夕刻に観測された報告ばかり(天文好きは夜型人間?)。星の特定は見送り。

冬至以後、日の出は6:51になり20日余り変わらなかった。暗く寒い日が続くので、それだけ明るい春が待ち遠しく思う。北欧の人びとの気持ちを想像する。

お正月の花：縁起の良いセンリョウ(千両)、水仙(花言葉・尊敬)、紅梅(優美)、セリ(芹)は春の七草の一つで、七草粥の食材。残念ながら、すずしろ(大根)以外の5草は見つからなかった。

新年に入り氷点下の朝が数日あった。寒冷の中でも逞しく咲く花：甘い香りのロウバイ(蠟梅)、パンジーは霜が降りても雪の中でも春まで花を咲かせる不思議な花だ。芦花公園の花の丘を飾っている。冬を越す白バラにも出会った。

1/12の午後、今年最初の雨。待ちに待っていたお湿りだ。人間にとってはコロナ感染リスクの低下、虫や植物たちには渴きを潤す水補給の時。翌朝の気温は氷点下。予期した通り、草木の葉の表をうっすらと霜が覆い、見慣れた葉が一変、興奮しながら撮影した。

今年もどうぞよろしくお付き合いください。

---

● バックナンバー (写真が拡大表示されます)  
<http://sengawacx.com/>

